

## 「地域の論点」 論点1 巻頭特別インタビュー

私たちがデザインでできること ～可能性×つなぐ×よろこび～

岡学園トータルデザインアカデミー

校長 岡 正子

長野プロデュース科1年 窪田 皓優

### はじめに ～ 地域の論点編集事務局より ～

『地域の論点』は今年で2年目を迎えました。この事業は、「在野の知的財産を集積し、実践知の可視化を図る」ことを目的として、昨年度からスタートしたものです。地域団体がこうした取り組みを行った例は珍しく、『地域の論点2020』を冊子やホームページ、SNSで発表したところ多くの方々からお問い合わせや激励のお言葉を戴きました。『地域の論点』という1つの対象物があるだけで、自身の意見を言いやすくなったり、関心を寄せることが出来るなど、私たちが想像していた以上の反応に驚きました。

そして今年度の『地域の論点2021』は、「若い世代の想いや取り組み」を取り上げることを1つのテーマとして掲げています。ここ最近の世相と言うと、災害やコロナ禍、賑わいの無い街、疑うことから始まる人間関係など、暗い話題ばかりですが、こうした日常に光を照らすことが出来るのは、若者の行動とそれを支える地域社会ではないでしょうか。

本日、インタビューさせて戴きます岡学園トータルデザインアカデミーは、学生たちに専門的基礎知識を授業で積み重ねたのち、積極的に教室から飛び出して企業、行政とのプロジェクトに学生達が自らトライできる環境を整えています。学生たちが行動することで自信を付け、一人ひとりが主役となっていくカリキュラムを大切にしているとのことです。まさに、岡学園は長野のトップランナーとして、「若者の行動とそれを支える地域社会（教育環境）」を体現しています。

岡学園の想いとパワーを多くの人たちに知って欲しい。こうした地域での活動を広く伝えることが、『地域の論点』の役割であり使命だと考えています。

そこで、今回のインタビューは、岡学園の岡正子校長と長野プロデュース科1年の窪田さんにお話を聞いていきたいと思えます。

——まず岡学園について教えてください。

**岡校長** 1946年に創立された岡学園トータルデザインアカデミー（旧ドレスメーカー研究所）は、「右手に技術力」「左手に人間力」を育むことを目的に、2021年で創立75年を迎えます。過去延べ1万人以上の学生が卒業し、多くの卒業生が様々な分野で活躍しています。創立時より築き上げた「技術力」と「人間力」は、想いと共に現在へと引き継がれ、そしてさらなる進化を続けています。



岡正子校長

私は、「デザインをトータル的に学べるのが岡学園」だと思っています。なぜかと言いますと、デザインをひとつの視点として世の中全体を捉え考えられるようになることで、自ら課題解決のできる人材を育成していきたいからです。それは、私自身もデザインを学び、実践していく中で広く世界を見て、挑戦し挫折もしそうになりながらも今日までたくさんの経験をさせてもらったことに由来します。環境問題に関心を持ち、デザイナーであり教育者でもある自分にも何かできることはないかと、「持続的共生社会」に向けての活動を現在続けているのも、『デザインを軸に多くの環境や場所、人と関わったから』だと思っています。

こうした考え方をもとに岡学園では、身に付けた技術や知識が、いずれ自分の人生の道を切り開く「糧」となることを信じ、常に「今」の社会に通用する「実践力」を身につけることに重点を置いています。またその一方で、生徒たちひとり一人の「個性」や「想い」に寄り添いながら、しっかりとその「人間力」を伸ばし、可能性を成長させていきたいと思っています。本学が常に合い言葉としてきた『好きを仕事に！』は、単なる言葉だけのメッセージではありません。確かなこの「実践力」と「人間力」を両輪のごとく身に付けることで希望する道へと着実な歩みが始まるからです。

一度きりの人生に幼い頃から興味を持った「好き！」というものを趣味で終わらせることなく、その可能性にトライしていくこと。そして、これからの時代に自分らしく生き抜く力を身に付けて欲しいと心から思います。

——なぜ、ファッションからスタートした岡学園が「長野プロデュース科」を新設したのですか？

**岡校長** 1996年に校長に就任して以来、ファッションデザインだけでなく、デザインを通じた流通過程・販売戦略・クリエイティブ力など、総合的なスペシャリストを養成するために「総合ライフデザイン科」「ファッションビジネス科」「デザインビジネス科」などを次々と新設していきました。そして、2017年に長野プロデュース科を新設しました。長野プロデュース科を新設するまでの約20年間、教育の分野を広げて「総合的なスペシャリスト」をと謳っていましたが、より広くデザインの枠を超えた分野での人材を育てるべきではないか？と考えるようになりました。そして、地域をプロデュースする能力を持った人材を長野にと思い新設に至りました。科名に敢えて「長野」を入れたのは、この学園の生徒たちと接していると本当に生まれ故郷である長野が好きなことが伝わってくるからです。そうであるならば、大好きな長野を創っていくという想いも込めようと入れています。しかしながら、新設から4年程経ちますが、まだまだ知名度は低いです。高校の先生などを含めてまだプロデュースをする、地域をデザインする、と言うことの意味を伝えきれていないと思うので、もう少し生徒とともに頑張らないとですね。

——それでは、続いて窪田さんお願いします。なぜ、多くの専門学校がある中で岡学園の長野プロデュース科を選んだのでしょうか？



窪田皓優さん

**窪田** 中学生の時は芸術が好きで、高校へ入ってからは建築を勉強しました。勉強をしているうちに自分の中で「デザインがしたい！」と思うのと同時に「長野で働きたい！貢献したい！」という気持ちも芽生えました。そして、岡学園のオープンキャンパスへ行く機会があり、そこで今の先生たちと出会いました。先生との距離感が近くて親近感が湧きましたし、授業が多くの企業と連携していて現場の声をよく聞けるということは、自分の長野で働きたい、貢献したいという思いにマッチしていました。さらに、デザインをしたいと思っていた自分に「地域デザイン」という領域は入学してみてもいいなという感じでした。

**岡校長** 嬉しいですね。新設 4 年で知名度はまだまだとお話ししましたが、入学前の高校生がこんな風に長野プロデュース科の紹介を感じ取ってくれているなんて、徐々にではありますが、私たちは積み上げてきているのだなと、彼の話聞いて実感しています。岡学園は、「産官学連携プロジェクト」を 2013 年から実施していて、学校外の評価をたくさん聞くことが出来ます。企業とのつながりは 120 事例を数え、生徒たちには大変良い経験になっています。

——窪田さんが地域デザインを通じて目指すものは何でしょうか？または大切にしたいことは？

**窪田** 大切なことは、「人と人のつながり」だと思います。目標は、「新しい観光を生み出すこと」です。現在、長野県の観光はコロナ禍もちろんありますが大変に厳しい状況です。この状況を何とか打破できないかと考えています。長野県は「大自然」という誇れる環境があります。自然という価値を新しい魅力として観光を盛り上げていきたいです。観光業は多くの人や企業、団体に関わるので、先ほどお話ししたように「人と人のつながり」がとても重要になりますので、積極的に「人」と関わっていき学んでいきたいと思っています。

**岡校長** 志しや思いが生徒と同じで本当に嬉しいです。普段はなかなかこういった機会はないので、生の声を本当にダイレクトに聞くことが出来て本当に良かった。やはり学校というのは「コーディネート役」なのだと思います。生徒の思いを受け入れ、力を引き出していく。「可能性を拡散させる」とそんなお手伝いがしたいですね。

**窪田** 学校で学んでいて、「踏み出す」ことが本当に大事だなと感じます。一概には言えないと思いますが、私たちの世代は直接的に意見を言えない世代だと私は感じています。SNS などの情報インフラの発達も一因だとは思いますが、心の中のどこかで「大人たちはどうせ受け入れてくれない」と思っているのではないのでしょうか？小さな頃から周りと同

じようにという教育を受けてきました。そうした「平均教育」の中で「空気を必要以上に読む」という弊害も出てきているのではないのでしょうか？岡学園では先生だけではなく、外部の多くの方とつながることが出来ます。だからこそ、勇気を持って思っていることを伝えて、そして多くのことを吸収していけたらと思います。

**岡校長** 私は自身の経験から「人は人によって磨かれる」と思っています。出会った人、感じたことを大切にしてほしいです。これは、岡学園の「現場主義」にも通じます。

——ありがとうございます。続いて、長野プロデュース科が目指す「デザインあふれる街づくり」について聞かせてください。

**岡校長** 私は、この「デザインあふれる街づくり」という言葉が本当に好きなんです。デザインがあふれる街は多くの可能性を持っています。デザインは何かを生み出すきっかけであり、化学反応を起こす核となるものだと思います。生み出すきっかけになるようなことをどんどん増やしたいです。岡学園とはこれを目指し創ることが究極的な目的であると思います。

**窪田** 「デザイン×街」は、多くの考えを生み、解決策を導いてくれるものだと思います。私たちの取り組みを見た人には、新しさや今までにない魅力を感じてほしいなと思います。

——それでは、これまで伺ってきた取り組みのひとつの形とも言える 2021 年 4 月より長野県立美術館で行う「My SDGs 展」についてお聞かせください。

**窪田** この展示会は、世界目標である SDGs の考え方を広く認知してもらうことを目的としています。私たち若者とその活躍できる場を作り、可能性の拡散を応援いただく皆様と一緒に、私たちが「今」できることを展示会を通じてお伝えできればと思っています。

この展示会は、2021 年 2 月に行われる岡学園の全生徒が作品を出す「制作展」の中から選ばれた作品が展示されます。私は、「福祉と多様性」をテーマに障がい者から見た世界を立体物で表現します。差別ある社会の価値観を少しでも変えることが出来る作品になるよう頑張って制作を進めています。2021 年 4 月 10 日～5 月 16 日まで長野県立美術館地下 1 階しなのギャラリーで開催されていますので、ぜひご来場をお願いします。

——素敵なコンセプトの展示会ですね。ぜひ伺わせて戴きます。さて、最後に同世代やこれからデザイン分野や岡学園を目指す人たちへメッセージをお願いします。

**窪田** 私と岡学園をつないでくれたオープンキャンパスですが、今は運営スタッフとして関わっています。岡学園は机上だけでなく現場でも学ぶことが出来るのが魅力です。わかりづらいと言われる長野プロデュース科を自分が伝えていくことが大事だと思っています。これからもどんどん長野プロデュース科を発信していこうと思います。ぜひ、オープン

キャンパスに顔を出してみてください。

——窪田さんありがとうございました。それでは岡校長、最後に一言戴けますでしょうか？

**岡校長** 私たちがデザインで出来ることは、大好きな長野から“ワクワク”を発信することです。それは、大好きな長野をもっと「可能性」あふれる街にすることです。

多様化する時代の中で、若きパワーを持った生徒たちが、人と地域をつなぎ、他にはない「モノ」や「コト」を生み出す「創造するチカラ」は、今後の地域活性化につながるエネルギーになっていくと確信しています。地財あふれる長野が大好きな街だからこそ、私たちはさまざまな出会いを大切に、これからもデザインの可能性をより多くの方々とともに創り上げていきたいと思っています。ぜひ、南石堂町商店街振興組合はじめ、地域住民の皆様とも“ワクワク”を発信していきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

#### 岡 正子 プロフィール

1998年、長野冬季オリンピックプログラムにて環境繊維（ポリ乳酸繊維）の衣装を発表。ファッションにエコロジーを取り入れた先駆者として国内外から注目を集め、2003年エコマコ（ブランド）をスタートさせる。2012年、ビジネス界のオスカーと言われるスティービーアワードでグランプリの国際ビジネス大賞を受賞。現在、岡学園トータルデザインアカデミーの校長を務め、人材育成にも力を注いでいる。



▲2021年4月10日～5月16日開催 岡学園「My SDGs 展」

※本稿は、南石堂町商店街振興組合「地域の論点」編纂事務局が2020年12月10日にインタビューした内容をまとめたものです。